

医療改革の契機に キャリア中断恐れずに

東京医大入試不正や働き方 東北大女性医師に聞く

東京医科大学の入試で女性や多浪生が不利になる得点操作が行われていた問題を機に、女性医師の働き方に注目が集まっている。東北大病院の福与なおみさん(46)、佐藤重子さん(43)、倉片三千代さん(42)は出産や育児を経験し、現役医師として働いている。3人に入試不正問題や働き方について聞いた。

(聞き手・石川雅彦)

女性への減点あり得ない

——今回の東京医大の入試不正問題をどう考えますか。
佐藤 許されることではないが、女性医師の出産後の就業率の低さを見ると、一理あるの思いはある。医師になって10年後に、女性の25%が就業していないという数字もある。ただ、出産、育児の関係で女性医師支援ばかりが取り上げられていて、今回の問題が、医師全体の労働環境の改善や働き方改革を考えるきっかけになればよいと思う。

福与 私も2人の意見と同じだ。医師個人の努力と善意に支えられている現状の医療体制の改革が、まず議論されるべきだ。それなのに、出産や育児で休職や労働時間の短縮をせざるを得ない女性医師を減らすこと

フルに貢献できぬ罪悪感

——「女性是不利」とどんなときに感じますか。
佐藤 「女性だから不利」と感じたことはない。しかし、出産前は自身の努力や責任でどうにか頑張ってはいるが、子どもが生まれてからはどうにもならないことが多い。私は近くに両親も

おらず、身近に子育てをして外科医として働いている女性がいなかった。「自分は職場で役に立たない」と思い、いったん離職してしまつた経験がある。今となつては主婦生活も糧になつていて、主として子育てに力を使っているが、キャリアアップに時間がかかつた



入試不正問題や医師の働き方について話す(左から)佐藤さん、福与さん、倉片さん。東北大病院、福与さんは希冀による後ろ姿

佐藤重子さん 外科医。福与なおみさん 小児科。倉片三千代さん 産婦人科医。5歳、4歳、1歳の中学生と小学生の2児の母親。43歳。高校生、中学生、小学生の3児の母親。46歳。3児の母親。42歳

「長だった時期もあり、支援される側と支援する側の両方の立場を経験した。多様な理解」と、「支援する側、される側、それぞれモチベーションの維持」が、「不利」の認識を変えていけると考えている。
倉片 医師の世界は免許し訳なく思っている。

結婚・出産「したい」時に

——出産の時期は計画的だったのですか。
佐藤 結婚も出産も、すべて「その場その場の対応」というのが本当だ。一般的には、手術数や論文数などの実績を作り、専門医になってから結婚、出産が理想的と言われる。だが私は医師4年目、結婚してすぐの29歳で出産した。そのためタイミングがずれてしまい、専門医の資格を取る

ことが遅れ、何度か苦労したことも確かだ。
福与 人生経験によって価値観や考え方は変わる。だから、そのときそのとき

に、やりたいこと、進みたい道を選ぶべきだ。結婚も出産も同様で、「したい」と思ったときがその人にとって最高のタイミングだと思

う。私は自分の妊娠も出産も「奇跡」だと考えており、当時は思い悩んだが、振り返ればあのときが「最高のタイミング」だったと思える。

倉片 私の人生も、当初の計画とは全然違う。研修医の3年目ぐらいの20代で子どもを作つて——などと思つてはいたが、独身で30代に入つてしまった。出産の(年齢的な)リミットを考えると「これでは子どもが持てない」と考え、結婚して36、38、40歳で3人の子を産んだ。出産だけは、計画的にうまくいったかもしれない(笑)。

——今の高校生、中学生の女性に伝えたいことは。
福与 いまの医療現場はまだまだ過酷な職場だが、

昔よりはずっと女性が働きやすくなった。医師という職業は、自分の能力を高めることが患者さんのためになり、世のためになり、自分の糧になる。やりのある職場だ。

倉片 産婦人科医として多くの女性患者に接していると、ときどきとても無責任な夫に会うことがある。「旦那に左右される女性」にはならないことだ。手に職をつけ、経済的に独立した女性になってほしい。

佐藤 医療現場での福利厚生は年々改善され、東北大病院にも規模の大きな保育園ができた。女性は出産、育児などのライフイベントによって、仕事ややりたいことがいったん中断され、ルールから外れることがあるかもしれない。でも、それは長い人生を豊かにしてくれるものかもしれない。未来を担う女子学生の皆さんには、どんどん医学界に入り、さらに医療現場を変えていってほしい。(敬称略)

という資格社会なので、ある面、男女差別はないと思う。産婦人科では、女性というだけで、患者さんに安心され、心を開いてもらえる面もある。女性としてハッピーを感じたのは出産後。それまで「私、やりませ」と引き受けていた仕事を制限せざるを得なかった。産婦人科は女性医師が増えており、男性医師に負担がかかるのを、いつも申し訳なく思っている。

病院に事業所内保育園
東北大病院がある星陵地区の教職員、学生らのための事業所内保育園。2010年に前身の保育園が病院内に設置され、今年4月から仙台市青葉区八幡1丁目に新しい保育園が生まれた。定員120人。生後2カ月から利用対象。午後10時までの延長保育、翌朝午前9時半までの終夜保育もある。

常勤では6倍近い差が
東北大病院の医師599人のうち、女性は27%の163人。非常勤医師のうち女性は106人で、男性104人とほぼ同数だが、常勤医師では女性57人、男性332人と、6倍近い差がある。年代別だと、30代では女性が41%を占めるが、40代では15%、50代では17%と少ない。